

■ 2013 年度

英語教育部はこれまでの「大学教育総合センター英語教育部」から、「国際戦略推進機構基盤教育部門英語教育部」へと組織の改編が行われました。この改編は単なる名称にとどまらず、いくつかの教育上の取り組みにも変革をもたらしつつあります。この変革について、

1. 自律学習の推進、2. 英語学習の質保証、3. 国際交流の推進、という3つのキーワードに基づいて説明いたします。

1. 自律学習の推進

学生が自身の能力や目的に応じて、授業外で自主的な学習を継続して行う必要性については、議論の余地がありません。これまでの英語教育部では、英語学習相談（Drop-in-at）において、学生へのカウンセリングを行い、さまざまな自律学習の指導を行ってきました。ここ、数年来、この学習相談に加え、次のような全学的な自律学習支援の企画を展開しています。

1) 多読ライブラリー

大学教育総合センター201室前において、洋書系出版社が刊行する、**graded reader**（段階別英語速読用ペーパーバック図書）のシリーズを配架し、貸し出しを行っています。英語実習クラスの担当教員を中心に、学生に速読、多読を呼びかけています。学期期間ばかりでなく、春季、夏季の休業期間中にも、図書を借りて学習を続ける学生もいます。

この多読ライブラリーは、2013年度より、図書館にも同様の速読、多読用図書を配架した「アクセスコーナー」が開設されました。これにより、学内の複数の施設において、読書用英語図書の利用が可能になりました。



大学教育総合センター201室前



図書館 3 階アクセスコーナー

単に書籍を配架するだけではなく、さまざまに読書を薦める活動も並行して展開しています。これまでは、なるべく多様な書籍を多数揃えることを目指してきましたが、その中でも、ことに学生に読んでもらいたい、読む価値のある書籍については、複数冊購入し、手書きの読書案内も提供しています。

さらに、学生による読書情報の交換を目指し、学生に読んだ本をはがき大の用紙に絵と文字で推薦記事を作成し、優秀作品を投票で決定するコンテスト「第一回 YNU 洋書 POP 大賞」を執り行いました。



大学生協の書籍コーナーでも、人気の高いペーパーバックの販売が行われ、コンテストに際し、授与賞品の一部提供も受けました。

2) 201 室の改修

大学教育総合センター201 室は、もともとは教室として整備されていましたが、理工系の事務室として利用されたこともあり、大型の両袖机と書架が室内を占有し、教育や学習のために十分活用されてきませんでした。2013 年度、この部屋から不要な物品を整理するのとともに、床面と壁面を刷新し、教員の教材作成とともに、小セミナー室として利用できるよう施設の刷新を行いました。201 室前に配置されたペーパーバックについて、室内で閲覧できるのとともに、学生の学習相談や、授業外の学習指導のために利用されています。また、室内には、テレビ番組の録画と視聴が可能な視聴覚機器やインターネットに接続した PC も備えられており、多読と合わせて、学生の多聴活動も今後は推進して行きたいと考えています。



2. 英語学習の質保証

英語教育部はこれまで、英語実習 1LR 秋学期において、英語統一試験 (TOEFL ITP) を通じて、「鬼の教員も仏の教員もない」統一した基準に基づき、成績評価を行ってきました。今般、文部科学省による指導のもと、学生の学習の質保証が、高等教育において求められるようになりました。2013 年度、英語教育部ではこの要請に呼応すべく、英語統一試験における単位取得のための最低基準の引き上げについて、全学的に検討を要請しました。多様な入試形態のもと、多様な学力や個性を持った学生が入学してくることを鑑み、先行する他大学と比べ、より現実的な基準設定となっています。これは、全学的なコンセンサスを重視して、英語学力の向上を目指そうとするものです。英語実習 1LR 秋学期以外の他の英語実習科目においても、より具体的かつ現実的な到達目標を設定し、教育活動の改善を進めます。1 年次には、YNU EGAP プログラム (1 年次総合英語プログラム) により、英語の 4 技能についてオールラウンドな質保証を

目指します。さらに、2 年次以降には、YNU EGAP プログラムの成果に基づいて、YNU ESAP プログラム（2 年次以降の学術的専門分野における英語学習プログラム）により、より高度な英語技能の習得を目指します。

3. 国際交流の推進

本学における、学生の海外研修は、学部主導で締結した交流協定を基に、交換留学ベースの短期留学が主流でした。今後、学生の海外学習を活性化させるため、学部依存せず、1、2 年生を対象とした語学研修や国際交流プログラムについて、英語教育部内での検討が始まりました。今年度末の 3 月に米国オレゴン州ポートランド州立大学を訪問し、同大学の夏期・春期一か月英語研修プログラムや一年留学プログラムの視察をするとともに、本学の学生に適合した研修プログラム内容の検討や交流協定締結の交渉が行われます。また、本学の提携校である、マレーシアのウタヤマレーシア大学での研修に、英語教育部の専任教員が引率として同行し、同大学における語学研修の可能性についても検討、交渉を行う予定です。